廃棄物処理方法改善による豊かな循環型社会の創生 ～CO_2クレジット配分による産業創出～

チーム名：資源循環（全般）
メンバー：尾﨑 大輔、唐井 利賢、神邊 進、佐橋 拓弥、槙 基宣
アドバイザリー講師：神本 祐樹、鈴木 英司、谷川 彩月、西田 美紀

現状の把握

人口	生産年齢人口減少の傾向（外国人は増加）
温室効果ガス排出削減	愛知県総排出量 横ばい。削減必須。 **廃棄物分野**：焼却の影響で排出量増加傾向。
	着目産業（排出削減が困難な産業）
	ITスタートアップ企業：製造業との親和性高いが愛知県には少ない。企業誘致による活性化が必要。データセンターで多量のCO_2排出有り。
	畜産業：地域特性・ブランド産品有るが、家畜特有の温室効果ガス排出が避けられない。

20年後のありたい姿：人が集まる豊かで明るい愛知県

ありたい姿に向けてのアプローチ

- 企業誘致・産業保護による生産年齢人口の増加
- 外国人にも住みやすい環境づくり
- 温室効果ガス排出削減が困難な企業・産業へクレジット配分（ｶｰﾎﾞﾝﾆｭｰﾄﾗﾙへの負担を手助け）
- 愛知県が廃棄物処理において高効率なエネルギーリサイクル（CO_2削減分をクレジット化）
- ごみ分別の簡素化

20年後に向けた提言の概要

（1） 廃棄物処理方法の改善

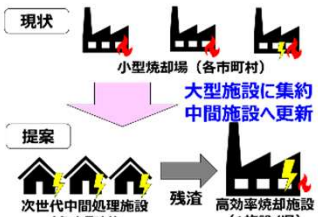
（2） CO_2排出権クレジット化と配分

提案の内容

（1）廃棄物処理方法の改善 → 分別簡素化 CO_2削減

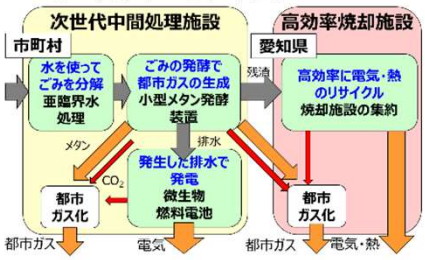
1） 焼却場の集約

高効率大型施設へ集約



2） 最新技術を組み合わせた中間処理施設の設置

多様なごみの分解・残渣軽量化とエネルギーリサイクル



（2） CO_2排出権クレジット化と配分

J-クレジット活用 → 温室効果ガス排出削減が困難なITスタートアップ企業、畜産業へ配分

提案実現のための具体的な取組（アクションプラン）と実現可能性

創出クレジット規模 ： ＋21億円/年

次世代中間処理施設稼働の収支

項目	収支（億円）
電気売電	＋58 /年
メタン売却	＋77 /年
新規設備の建設費	－2,400

回収期間 18年

波及効果

ステークホルダー	波及効果
愛知県 市町村	最終処分でのメタン発生削減 収集運搬の費用・CO_2排出量削減
企業	スマート企業とのシナジー効果 県産カーボンニュートラル肉のブランド化
県民	税収増による社会インフラの充実